

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 30 日作成)

委員会名	都市企画小委員会	主 査 名：佐藤 滋
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：佐藤 滋
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>(具体的な目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 建築学会都市計画委員会および関連委員会における研究成果の体系化、専門実務家・地域社会への公開、および出版・講習会開催を通じた普及活動 (2) 都市計画分野における新規研究活動テーマの発掘、創造および関連委員会との連携研究の実施と支援 (3) アーバンデザイン教科書(仮称)の執筆・編集・刊行 (4) アーバンデザイン図集(仮称)の執筆・編集・刊行 (5) まちづくり建築支援会議(仮称)が行う講習会開催の支援、およびテキストの執筆・編集・刊行 (6) 都市計画委員会ホームページの運営、管理およびメーリングリストを活用した委員会活動・成果の情報公開と広報活動 (7) 建築学会支部都市計画委員会および関連諸団体との関連情報共有化システムの開発、および小委員会活動紹介の在り方についての検討 (8) 東南アジア諸国の都市居住環境を中心とした、自然環境保全・改善に関わる都市計画手法、制度の研究と成果の公開 <p>本小委員会は都市計画委員会所属の各小委員会およびワーキンググループにおける研究活動成果を体系化し、出版物刊行、講習会・シンポジウム開催などを通して専門実務家や地域社会への公開と普及の促進を目的とする。上記目的達成のため、都市計画委員会所属のタスクフォース型ワーキンググループを本小委員会下に移行し、具体的な出版物や講習会などの成果として結実させることを重点目標とする。</p> <p>(活動の具体的方法、内容)</p> <p><u>2003年度</u>:以下のタスクフォース型WGを都市計画委員会所属から本小委員会所属に移行し、各タスクに関する資料収集、整理、分析、および研究を、その成果の取りまとめを行う。</p> <p>(1)大会企画WG、(2)アーバンデザインWG、(3)まちづくり・建築ガイドラインWG、(4)情報化WG、(5)環境地域計画WG、(6)都市防災における雷保護対策の必要性とその構築WG</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>(委員構成の考え方、分野別構成、地域性、公募制等)</p> <p>主査： 佐藤 滋(早稲田大学・都市計画委員長)</p> <p>委員： 三輪康一(神戸大学・都市計画委員会支部担当幹事)</p> <p style="padding-left: 2em;">出口 敦(九州大学・都市計画委員会経理担当幹事/アーバンデザインWG主査)</p> <p style="padding-left: 2em;">中井検裕(東京工業大学・都市計画委員会小委員会担当幹事/まちづくり・建築ガイドラインWG主査)</p> <p style="padding-left: 2em;">有賀 隆(名古屋大学・都市計画委員会総務企画担当幹事/2003年度大会企画検討WG主査)</p> <p style="padding-left: 2em;">篠崎道彦(芝浦工業大学・情報化WG主査)</p> <p style="padding-left: 2em;">池田孝之(琉球大学・環境地域計画WG主査)</p>	

設置WG (WG名:目的)	(1) 2003年度大会企画WG (2) アーバンデザインWG (3) まちづくり・建築ガイドラインWG (4) 情報化WG (5) 環境地域計画WG (6) 都市防災における雷保護対策の必要性とその構築WG 添付のWG別自己評価報告書を参照のこと
2003年度予算	720,000円

項目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	添付のWG別自己表評価報告書を参照のこと
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) (内容と公表形態) 2003年度大会での都市計画部門・研究協議会開催と資料集の編纂、出版 アーバンデザイン図集、アーバンデザイン教科書の出版企画(学会刊行委員会にて承認済み) まちづくり建築法制度、ガイドライン関連の研究成果に基づく、公開研究会の開催、学会特別研究委員会との協働 都市計画委員会・支部関連委員会間の情報共有化システムの検討 環境保全・改善型都市計画手法の研究成果の取りまとめとシンポジウムなどの開催
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 添付のWG別自己評価報告書を参照のこと
その他評価すべき事項	特になし

2003 年度 WG 活動成果報告

(2004 年 3 月 30 日作成)

委員会名	2003 年度大会企画検討ワーキンググループ	主 査 名 : 有賀 隆
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会・都市企画小委員会	委員長名 : 佐藤 滋
設 置 期 間	2002 年 11 月 ~ 2003 年 9 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>本 WG は都市計画委員会の直下に位置し、2003 年度大会での都市計画委員会及び委員会関連分野の研究集会の企画検討・調整、資料集作成・出版、及びそれらの支援を目的とする。</p> <p>特に都市再生に関わる全国各地での構想策定や事業検討の取り組み、木造密集市街地更新の計画づくりやまちづくりなど、これまでの都市環境を再構成する多くの取り組みの成果を整理し、これらを踏まえてさらに自然環境との共生や歴史環境など地域性の保全、人口減少期の空間像やまちづくりビジョンの構築など、次代の都市像・都市システムと社会的仕組みづくりなど新たな課題に挑む現代都市計画に対して、建築学会・都市計画部門としてのアジェンダとその実現へ向けた提言を行う。</p> <p>またそのために必要な、関連研究活動やその成果の公開、社会的アピールや行事の開催などについての企画検討、活動支援などを行う。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>主査 有賀 隆 名古屋大学 幹事 浅野 聡 三重大学 中井 検裕 東京工業大学 三輪 康一 神戸大学 出口 敦 九州大学 佐々木 葉 日本福祉大学 松田 和彦 名古屋市 野嶋 慎二 福井大学 吉村 輝彦 国連地域開発センター 松浦 健治郎 三重大学 向口 武志 名古屋市立大学 菊地 吉信 福井大学 浅野 健 (株)都市研究所スペースア</p>	
設置 WG (WG 名 : 目的)	2003 年度大会(中部大学)における都市計画部門の研究協議会開催に向け、プログラムの企画・立案、資料集編纂および出版、参加者選定を行い、実施に向けた作業を行う。	
2003 年度予算	0 円 (都市企画小委員会予算を参照のこと)	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	WG 開催議事録を参照のこと(事務局提出済み)
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)

	<p>WG活動成果：都市計画部門研究協議会「100万都市の再生論とその都市像」・研究資料集 編集・出版（400部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究協議会 参加者：内閣府都市再生本部事務局、 4政令指定都市自治体行政、 都市基盤整備公団、 大学研究者他。 ・ 100万都市の再生に対し、WGメンバーによる研究討論を踏まえ、「地域主権と自立協調時代の100万都市づくりへの提言」としたアジェンダの発表を行い、計画論、制度論、実践論の各視点からの専門的討論を行った。
<p>目標の達成度</p>	<p>（当初の活動計画と得られた成果との関係）</p> <p>WG設置目的に対応して、2003年度大会（東海）における都市計画部門研究協議会の実施と資料集の出版を達成し、100%の成果を得る事ができた。</p>
<p>その他評価すべき事項</p>	<p>特になし</p>

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 17 日作成)

委員会名	都市企画小委員会 アーバンデザインWG	主 査 名：佐藤 滋
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：佐藤 滋
設 置 期 間	2002 年 12 月 ~ 2004 年 11 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	「アーバンデザイン」の教育に関わるテーマに関して研究、調査を行うことを目的とする。特に、文献の収集、整理等を行い、歴史軸の中でのアーバンデザインの体系を整理し、大学における専門教育の観点から必要とされるアーバンデザインに関する図集の作成を行う。また、関連する今日的な課題に関する研究、調査を進め、整理するとともに、都市計画分野における学会として取り組むべき新たな研究テーマの掘り起こしを行う。2003 年度の計画では、アーバンデザインの体系の整理および歴史上のアーバンデザインに関する図、文献等の収集、整理、リスト作成を行うこととしていた。	
委員構成 (委員名(所属))	出口 敦(九州大学) 有賀 隆(名古屋大学) 中井 検裕(東京工業大学) 三輪 康一(神戸大学) 小林 正美(明治大学) 根上 彰(日本大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	アーバンデザインWG 目的：アーバンデザイン図集の刊行	
2003 年度予算	円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2003 年 6 月 7 日(金)(ガイドラインWGと共同開催)6 名 2003 年 9 月 5 日(金)(ガイドラインWGと共同開催)6 名 2003 年 10 月 7 日(火)(教材WGと共同開催)4 名 2004 年 3 月 9 日(火)(教材WGと共同開催)4 名
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 本WGは、「アーバンデザイン図集」の企画・刊行を主たる活動目的としている。そのため 2003 年度は、アーバンデザイン図集に関わる参考文献の抽出、図集の構成内容の検討を行った。また、検討を通じての歴史上のアーバンデザイン関連図の歴史的な位置づけや体系的整理を行った。多岐に渡るアーバンデザイン関連図や図集の整理法や刊行物の位置づけや活用方法を協議し、その成果として、2003 年 11 月および 2004 年 2 月に本会に提出した刊行企画書のベースとなる図集企画および全体構成案を作成した。また、企画段階であるために、成果の公表は行っていない。
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 当初の目的では、2004 年度中の刊行を目指した、準備作業や協議を進めることとしていたが、刊行企画書を本会に提出し、今後本格的な図作成に向けての準備段階の作業や協議は予定通り進めることができた。ただ、図集をⅠおよびⅡの分冊とする案で進めることとしたが、後編の内容構成については、今後の検討課題となっている。
その他評価すべき事項	特になし。

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 2 月 9 日作成)

委員会名	環境地域計画システム WG	主 査 名：池田孝之
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画本委員会	委員長名：佐藤 滋
設 置 期 間	2002 年 4 月 ~ 2004 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	地域環境の保全・改善にかかわる計画手法の概念整理 (2002 年度) 国内外における環境計画手法の事例と分析 (2003 年度)	
委員構成 (委員名(所属))	池田孝之(琉球大学) 他 9 名	
設置 WG (WG 名:目的)	環境地域計画システム WG	
2003 年度予算	円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	研究会議 (2003 年 09 月 05 日・7 名) 研究会議 (2003 年 10 月 24 日・5 名)
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>今年度(2003 年)は上記の計画にもとづき、台湾における都市居住環境問題、環境保全・改善手法、計画事例などの実態調査と分析を行った。特に、台湾における「社区企画師」の制度とその実態調査及びヒアリング調査から得た資料に基づき、分析・整理するとともに建築学会大会及び論文集の論文として発表の予定である。</p> <p>併せて、沖縄を始めとする各地域での環境保全・改善手法モデルの事例収集とその検証を行った。特に、「沖縄の美しい風景デザイン研究」をテーマに、コミュニティ・プランナーの役割と行政システムのあり方について、沖縄で公開研究会を行なう。</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>最終年度として、2 年間の活動の成果をまとめるとともに、今後の活動の発展的展開として、WG を廃止し、新たに、参加委員を拡充し、より具体的な活動成果を目標として「地域環境計画システム小委員会」の設置を提案した。</p>
その他評価すべき事項	

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 23 日作成)

委員会名	都市計画委員会 まちづくり・建築ガイドラインWG	主 査 名：中井 検裕
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：
設 置 期 間	2003 年 1 月 ~ 2004 年 12 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	望ましい建築・都市計画・まちづくりに関わる方法・規準・あり方(ガイドライン)を、客観的な研究成果に基づきとりまとめ、広く社会に対して公表する。 初年度活動計画：総合設計など特例的な建築制度の運用状況を把握する。 次年度活動計画：建築行政ガイドライン、及び市民向けガイドラインの作成	
委員構成 (委員名(所属))	中井検裕(東京工大) 米野史健(国総研) 出口敦(九州大) 有賀隆(名古屋大) 三輪康一(神戸大) 小浦久子(大阪大) 田中友章(フォルムス) 内海麻利(駒沢大) 小池博(ハーバード大) 鈴木繁康(東京都) 久保勝裕(北海道工業大) 真野洋介(東京工大)	
設置 WG (WG 名：目的)	まちづくり・建築ガイドラインワーキンググループ	
2003 年度予算	円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2003 年 3 月 11 日：10 名 2003 年 3 月 22 日(京都見学会)：5 名 2003 年 6 月 7 日(委員会および青梅見学会)：8 名 2003 年 9 月 5 日：9 名 2004 年 1 月 27 日：7 名 2004 年 3 月 9 日：8 名
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 特例的な建築制度の運用状況を把握すべく、次のような活動を行った。 1) 京都市における袋地再生・連担建築物設計制度の運用事例、および青梅市における都市計画制度の運用事例を見学し、その特徴と課題を把握した。 2) 建築基準法・都市計画法の興味深い運用事例として、神戸市の近隣住環境計画制度や高度地区による既存不適格建築物の特例許可、委任規定と自主規定を複合的に定めた条例などの例を収集し、運用上の工夫と課題を把握した。 3) 建築設計者を招いて意見交換を行い、設計上で問題となる集団規定の規制内容を把握するとともに、改善・再編の方向性に関して議論を行った。 以上の活動より、集団規定の課題・問題点を把握するとともに、興味深い運用事例を通じて制度の微修正や運用を見直す上での方向性を得たことが今年度の成果である。 これらの成果は、連携して活動を行っている「建築基準法・都市計画法特別研究委員会」が主催する公開研究会で活用され、学会内外に向けて公開されている。 (当初の活動計画と得られた成果との関係)
目標の達成度	特例的な建築制度に対する自治体の運用状況の把握、及び既存の研究成果のとりまとめという当初の活動計画に対して、実際の活動を通じて基本的な事項及び主要な事例の把握は行えており、おおよそ期待される成果は得られたといえる。 ただし、上記に引き続き行うとしていた、ガイドライン案の作成と公開小研究会による案の検討という活動計画に関しては、前述の特別研究委員会主催の公開研究会である程度議論は出来たものの、案の検討は十分には行えなかった。
その他評価すべき事項	